

文化女大家政 高塚千恵子
 ○遠藤 武

1. 戎服というのはわが国幕末開港期における軍装に
 対した名づけられ言葉である。これは中国の外夷民族に
 対する称え方をそのまま踏襲したもので西洋を意味する
 ことであった。わが国が洋服や西洋服なる言葉を用いる
 以前に戎服なる時期があったわけで、彼等の服装が軽快
 で着脱に便利、その上機動性に富んでいることは、彼等
 の軍制と共に日本の刀槍弓箭による時代が早晚過去とな
 る運命にあることを痛感したことであった。幕府は非常
 時の到来から武家服制を断行、さらに軍装改革へと急い
 だのであった。それが戎服であり、和式洋装化への第一
 歩でもあった。

2. 上記を究明するため文献資料として徳川実紀、嘉
 永明治年間録、南紀徳川史をはじめ各藩の史料、江川坦
 庵全集、勝海舟全集を分析、服装図として佐倉藩陣服図
 式とその着装図が西尾市岩瀬文庫に蔵されているのを利
 用した。

3. 資料を蒐集、調査、比較研究した結果、わが国の
 戎服といわれる初期軍装は

A 欧米模倣の服装でなく、全く日本的である

B 被服構成は筒袖立附股引の2部式構成

C 階級、身分は袖印と陣羽織の有無で決定

D かぶり物は陣笠(士官) 葎山笠(兵士)

等の特色があり、各藩は紋所をつけて他藩と区別するな
 どの配慮を行なった。